

1 教育目標（目指す児童像含む）**(1) 基本目標**

豊かな人間性と創造力を持ち、自主的精神に満ち、心身共にたくましく、実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・ 明るく元気できたえる子（鍛える）
- ・ おちついてよく考える子（考える）
- ・ みんな仲よくきまりを守る子（思いやる）
- ・ ねばり強くやりとげる子（実行する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくり」

小規模校ならではの、児童一人一人へのきめ細かな対応を基盤に、児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安心・安全な学校、家庭や地域からの信頼をもとにした地域とともにある学校、教職員が専門性を生かし自分の力を十分に発揮できる学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「小学校学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画 2025」「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」等に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、家庭や地域との協働を進めるなど特色ある教育活動を推進する。

- (1) 児童が安心して楽しく通える学校づくりを進めるため、互いのよさを認め励まし合う雰囲気醸成するなど、人権尊重の教育を基盤とした安心安全な学校づくりに努める。
- (2) 明るく元気できたえる子の育成に向け、体力の向上と望ましい食習慣の形成、そして安全教育の充実に努める。
- (3) おちついてよく考える子の育成に向け、児童の学ぶ意欲の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実に努める。
- (4) みんな仲良くきまりを守る子の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導の充実と、豊かな人間関係を築く教育活動の推進に努める。
- (5) ねばり強くやりとげる子の育成に向け、児童の自己肯定感を育むとともに、成功体験を繰り返せる環境づくりを推進し、未来を生き抜く力の醸成に努める。
- (6) 家庭・地域・関係機関と連携、協働を推進し、社会に開かれた教育課程の視点から、地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりに努める。
- (7) 教職員が高い使命感や、やりがいをもって勤務し、質の高い教育を行うため、業務の効率化を図るとともに、勤務時間の適正化に努める。

○(8) 鬼怒地域学校園の教育ビジョンを達成するため、地区内小中学校との情報共有、及び共通実践を通して小中連携の一層の充実に努める。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、並びに小学校学習指導要領、県や市教育委員会の指導方針、学校経営方針等に基づき、児童や地域の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」を編成する。
- (2) 体験活動を重視した特色ある教育活動を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科横断的な学習、及び探究的な学習の充実を図るなど、児童の知・徳・体バランスの取れた「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- (3) 鬼怒地域学校園の各校との連携を図り、小中一貫教育の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくりを推進するため、学校の組織力を高めるとともに、家庭や地域との連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。

- 児童が安心して通える、魅力あふれる安全な学校づくり
- 児童の学力向上を目指す学校づくり
- 児童の自己肯定感を育成する学校づくり
 - ・ 創立150周年記念事業に向け、地域学校協働活動のより一層の充実
 - ・ 業務の効率化と勤務時間の適正化等を図るための風通しの良い職場環境づくり

(2) 学習指導

- 自他のよさを認め合い、思いや願いを大切にできる子どもの育成

(3) 児童生徒指導

- 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成
 - 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 自らの心身の健康に関心を持ち、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・ねらいを明確にした上で、探究的な学習や体験活動等の多様な学習活動を通して、他者と協働しながら学習に取り組むよう指導する。 ・TTや習熟度別指導により、分かる授業を展開し、児童の学習意欲を高め、進んで学習に取り組む態度を育てる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92.9%で、指標の85%を上回った。児童は意欲的に学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、分かる授業を展開したり、多様な学習活動を取り入れたりすることにより、児童の学習意欲を高めていく。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・道徳科の授業において、考えが多面的に深まるような議論する展開を図る。 ・ファミリー班活動や学校行事等における異年齢児童との活動の機会の設定、地域の大人との交流などにより、学年・学校を超えた人とのかかわりを深める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は85.7%で、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・引き続き議論を行い、考えを広げたり、深めたりする道徳の授業を行う。 ・ファミリー班を中心とした異年齢交流活動を引き続き行う。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・水泳検定、なわとび検定等の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努める。 ・「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の努力や良さを認め励ます教育を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94.3%で、指標の85%を上回った。児童は意欲的に学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童が目的意識をもって活動できるように、自己の成長を実感できるような取組を行っていく。

1－(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童、教職員、保護者の肯定的回答 85%以上	・定期健康診断や避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施するとともに、体験活動を通した指導を行う。 ・各種便りを定期的に発行し、HP 等を活用して保護者への啓発を図る。 ・歯みがき指導やフッ化物洗口など歯と口の健康づくりに取り組み、習慣化を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答97.1%，保護者97.4%，教職員100%でそれぞれの指標の85%を上回った。 ・児童は、健康診断や避難訓練に熱心に取り組んでいた。また、教職員はそれらの必要性を伝え、児童が健康や安全に興味・関心を持って生活できるよう指導していた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、健康や安全への意識を高めていく。
1－(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・特別活動やキャリア教育等を通して自分のよさを知り、夢や目標をもって努力し自らの成長を実感できる教育活動に取り組み、振り返りを共有する。 ・一人一人の特徴を生かす活動を工夫したり、帰りの会等で個人のよさを認める場面を設けたりして、自己理解やよりよい人間関係づくりを促進し、友だちと協力して働くこうとする態度を育む。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は91.4%，教職員の肯定的回答は100%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・学習活動や行事の中で振り返りを行う際に、自分の成長した点を学級等で共有する時間を確保していく。 ・学校行事での努力や向上した点を共有する時間を引き続き設けていく。 ・様々な活動の中で、自分や友達の良さをお互いを知る機会を設けていく。
2－(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・ALT と連携し、学年の実態に応じ、外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 ・ALT との給食や昼休みの交流を通して、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であったが、児童の肯定的回答は 81.4%となり、指標の 85%を下回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、児童の実態に合った活動や教材の工夫に取り組む。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間等において、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。 ・宇都宮学などの学習の様子について、学校だより等を活用して発信する。 ・地域の情報を、学校だより等で発信することにより、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.6%となり、指標の 85%を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は 75%で指標を下回った。 【次年度の方針】 ・学校だよりで発信する等、今年度の取組を継続するとともに、社会科や総合的な学習の時間で宇都宮の良さや宇都宮で生活する喜びを実感できるような学習の工夫に取り組む。
2－(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・児童の発達段階や、各教科等の学習の特色に応じた一人 1 台端末の効果的な活用を推進し、児童の情報活用能力の育成に努める。 ・情報教育担当や司書、学級担任が連携し、個人用パソコンや図書室等を活用した調べ学習や発展学習の充実を図る。 ・図書だよりによる啓発や読書週間における家庭と連携した取組など、学校図書館を核とした読書活動を推進する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.6%，教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、授業での一人 1 台端末の活用に関する研修を行い利用の場を広げたり、調べ学習で宇都宮市の図書館と連携を取ったりするなど、児童の情報活用能力のさらなる育成に取り組む。

2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・学校農園活動など、自然の豊かさを実感させる教育活動に取り組む。 ・親子除草やクリーン活動・節電スイッチオフ運動・リサイクル活動など、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 ・SDGs の内容を読書活動や給食に取り入れ、関心をもてるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、94.3%、職員の肯定的回答は、93.8%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する共に、食味体験の振り返りを行うなど、地産地消の取り組みや環境学習等に取り組んでいく。
3-(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・校内支援委員会やケース会議、児童に関する情報交換会を通し、特別な支援を必要とする児童の情報について共有を図る。 ・児童の活動をしっかりと見取ること、児童の特性に合わせた適切な支援や指導に生かすようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は100%で、指標の85%を上回った。授業のねらいを明確にし、児童一人一人の学習状況に応じた指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・日常的に情報を共有し、必要に応じて校内支援委員会を開催することで、児童の特徴に合った支援や指導方法を学校全体で共有していく。
3-(2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・いじめゼロ月間やいじめアンケート、道徳の授業の取組を通し、全校体制で様々な機会を捉え、人権の尊重や「いじめは絶対に許されない」ことについて指導する。 ・教職員は児童の様子を観察し、未然にいじめを防ぎ予防に努めるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は98.6%、保護者の肯定的回答は90.9%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・いじめゼロ強調月間やいじめアンケート、道徳の授業、児童の様子を観察等を行い、引き続きいじめの未然防止に努めていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・職員会議での情報交換等で学級の課題を取り上げ職員の共通理解を図るとともに、適宜、ケース会議や不登校対策委員会を開く。 ・友達の良いところを見つける活動等を行うなど、児童の良さや努力などを認める教育を推進する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94.3%、教職員の肯定的回答は100%で、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・日頃から児童の良い点や課題、適切な指導方法について共有するとともに、適宜ケース会議を開くなど、学校全体で歩調を合わせ指導していく。 ・児童の良さを見つけ、認める活動を継続していく。
3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・それぞれの児童が得意なことで活躍できる場面を設定する。 ・結果だけでなく過程（努力や準備）にも目を向け、機会を捉えて適切に児童や保護者に伝えるよう意識する。 ・学校行事など振り返りの時間を設け、できたことについては必ず挙げるようにする。 ・保護者や地域には、学校で生き生きと活動する児童の様子を HP やメール配信、各種便り、回覧板等で積極的に発信する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97.1%で、指標を上回った。保護者の肯定的回答は昨年度より5.8ポイント上がっている。教職員は児童一人一人を大切にし、それぞれの良いところや努力の過程に目を向け、見取ったことを児童に伝えるなどして自己肯定感を育てており、児童は明るく充実した学校生活を送っている。 【次年度の方針】 ・引き続き児童の活躍の場面を設定し、本人の良さなどについて保護者や地域に伝えていく。
3-(4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・学習のねらいを明確にし、児童が考 えの深まりを実感できるような学 習のまとめや振り返りを意識した 授業を組み立てる。 ・児童が興味・関心をもって授業に臨 めるような課題を設定するととも に、児童一人一人の状況に応じたき め細かな指導をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、97.1%となり、 指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き児童一人一人に応じた、きめ 細かな指導に力を入れていく。 ・目標・まとめ・振り返りの学習のサイ クルを通して、児童が学びの意義を実感 できる授業の工夫に取り組む。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以 上	・個別指導、授業資料提供等におい て、市会任職等と教員が十分に連携 を図りながら、質の高い教育活動を 実践する。 ・管理職のマネジメント力向上を図 ることで学校の組織力を強化し、同 僚性を発揮して児童への指導・支援 を充実する。 ・職員室前面のホワイトボードの活 用や打合せ時間の確保など、共通理 解を図る環境を整える。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で指標を 上回った。 【次年度の方針】 ・養護教諭や学校栄養士の授業参画、学 校図書館司書と図書館教育担当教諭が 連携した読書活動の推進など、日常的に 教職員相互の連携が図られ、質の高い 教育活動が実践していくことで、学校 の組織力を強化し、児童への指導・支 援の充実を図る。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以 上	・学校司書業務、ALT、かがやき指導 員、学校栄養士業務等が各種教育活 動に参画することや、学校事務支援 スタッフの有効活用により、教員が 児童と向き合う時間を確保すると ともに業務の軽減を図る。 ・PCを活用しての会議の効率化や、打 合せ・会議の機会精選などの取組に より、放課後の教材研究の時間を確 保する。 ・学校行事の反省等、教育課程のふり かえりや意見を取りまとめ、職員会 議で検討するなど、次年度以降の効 率化につながる改善に取り組む。 ・学校徴収金システム、インターネット バンキング等を活用して、出納業 務の効率化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で指標を 上回った。 【次年度の方針】 ・各教職員がそれぞれの専門性を生か したり、チームで業務にあたったりす ることで、更に業務内容の改善と勤務 時間を意識した働き方改革を推進す る。 ・教職員向け校務支援ツールを活用し、 打ち合わせ等の時間短縮に努める。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・小中一貫教育・地域学校園における 各部・分科会の計画の進捗状況につ いて情報交換をし、取組について各 種便り等で積極的に発信する。 ・鬼怒地域学校園のあいさつ運動等 の行事を通し、児童・生徒交流を積 極的に推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は100%で指標を上 回っているが、保護者の肯定的回答は 81.8%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・<u>中学生の職場体験や、中学校教員によ る乗り入れ授業、中学生とのあいさつ運 動、地域学校園共通のお話給食、地域学 校園合同親学講演会などの小中一貫教 育の取組について、趣旨の明確化を図 る。</u> ・<u>地域学校園で協力し、活動の情報発信 に努めていく。</u>

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者、地域の肯定的回答 85%以上	・地域協議会と連携し、地域の方々や保護者との交流を深める教育活動を推進し、より効果的な方法で広く情報を発信する。 ・体験活動を促進することによる教育活動の充実を図るため、学校支援ボランティア等の活用を計画的に実施する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 97.1%, 地域は 100%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・小規模校の強みを生かし、地域行事への協力や参画を通して家庭・地域と連携した教育活動を推進していく。 ・PTAや地域協議会の活動を通してよりよい児童の育成に努めていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者、教職員の肯定的回答 85%以上	・毎月の安全点検を確実に実施し、児童や利用者が安全に活用できる環境づくりに取り組む。 ・予算を効果的に活用し、破損個所の修繕を計画的に行い、安全確保に努める。 ・保護者や利用者へ来校時の注意点の周知、危険個所の表示、AEDの活用、災害時避難方法、危機対応に関する情報を提供する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 100%, 教職員も 100%で指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も交通安全や不審者侵入防止、熱中症予防等について学校危機管理マニュアルを見直し等、今年度の取組を継続する。 ・「さくら連絡網」、ホームページを活用して保護者や地域住民に情報を発信していく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・各学年、各教科のデータを共有フォルダに格納し、教職員が共有できるようにする。 ・スクールタクト等を活用し、授業に役立つ動画や課題の共有を行うとともに、児童同士の意見交換や体験活動のまとめなどに1人1台端末を活用する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、更なる活用ができるよう、セキュリティに関する研修やAI活用の研修に取り組む。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・保護者や地域と連携し、「平央小よい子の一日」や毎月の生活目標のもとに、きまりを守り、さわやかなあいさつができるようにする。 ・<u>あいさつ強化週間の設定・児童会活動の活性化等</u>を図り自発的にあいさつができる環境づくりをする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94.3%, 保護者の肯定的回答は92.3%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・学校生活・登下校指導で、教職員から児童へ対しての積極的なあいさつを継続し、あいさつの習慣化を図っていく。 ・<u>地域と連携したあいさつ運動が拡大するよう努める。</u>
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・授業や休み時間等の時刻を守るよう全校体制で取り組む。 ・時と場にふさわしい言動をとれるよう指導する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88.6%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・授業中や給食・清掃などの日頃の活動で、きまりやマナーについて指導を継続して行っていく。
	B3 児童は地域の人や保護者に見守られて安心して登下校している。 【数値指標】 児童、保護者、地域の肯定的回答 85%以上	・登下校時に教職員や保護者、地域防犯団体が連携して同行、見守りを実施する。 ・下校時の見守り活動の活性化を図るため、地域協議会やエリアサポート平石の協力を得ながら、自治会への協力を要請する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答98.6%, 保護者は 97.4%, 地域は100%とそれぞれ指標の 85%を上回った。教職員や保護者、地域の方々に見守られながら安全に登下校することができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、登下校時の見守り活動を活性化していく。

	B 4 児童はよく考え、自分の意見を発表している。 【数値指標】 教員、児童の肯定的回答 85%以上	・学習の目的やねらいを明確にし、見通しをもって意欲的に取り組ませる。 ・児童が必然性を感じるような話合いの場を設定して、個々の考えを深めるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、91.4%・教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、児童の既習事項や体験等が学習のめあてにつながるような授業展開の工夫をする。 ・学ぶ意義を実感できるめあての提示等に取り組む。
	B 5 児童は、好き嫌いなく食事をしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・給食だよりを定期的に発行して食育についての意識を高めると共に、健康的な食事ができない児童に対して個別指導を行う。 ・栄養士、養護教諭の授業への参画を推進する。(学級活動)	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88.6%と指標を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は71.1%で、指標を下回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、苦手克服メニューを立てることで、好き嫌いせずに食べようとする児童の意識を高めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

25 ある質問項目のうち、数値指標を達成したのは 22 項目であった。

今年度の学校経営方針のもと、教職員は児童一人一人に応じた支援をしながら学習指導、児童指導に取り組んできた。昨年に引き続き、本校の取組を児童や保護者、地域に理解していただき、家庭や地域との協働活動を充実させた成果が表れたと考える。

・A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、児童・教職員・保護者とも数値指標を上回り、特に保護者の肯定的回答が前年度より約 12 ポイント増加した。ライトライン開通後の児童の登下校の様子が、保護者に安心感を与えたものと思われる。

・A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」では、保護者の肯定的回答が 97.1%と前年度より 10 ポイント近く上回った。以前の活動が復活してきた現在の状況や地元企業と構築した協力関係をこれからも維持していきたい。

・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている。」では、教職員の肯定的回答は 100%であるが、児童の肯定的回答は 81.4%であった。授業では教員が ALT と協力し、様々なアクティビティを通して英語を学ぶ楽しさをさらに実感できるように指導していきたい。

・A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では、児童の肯定的回答は 88.6%であるが、保護者の肯定的回答は 75%であった。生活科、社会科、総合的な学習の時間等を活かし、平石地区や宇都宮市について学習しているので、児童が学んだことを各種たよりやホームページ等で発信していきたい。

○A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」では、児童の肯定的回答は 100%であるが、保護者の肯定的回答は 81.8%であった。中学生との合同あいさつ運動、中学校教員による乗り入れ授業、学校園での給食や図書、保健関係等、多くの取組を実施している。それらが保護者に伝わるよう、さくら連絡網や各種たよりでの発信を増やしていきたい。

7 学校関係者評価

- ・ A2「児童は、思いやりの心をもっている。」 B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」の児童の肯定的割合が、これまでの平石中央小学校の数値から下がった。教職員には、児童間トラブルがないように見守ってほしい。
- ・ A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」において、児童・教職員・保護者の肯定的回答が数値指標を上回っているのは、保護者の理解を得られたことが要因であると思う。
- ・ A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」の保護者の肯定的割合が指標に達しなかったのは、周知不足のほか、家庭での会話にも関係すると考える。親子のコミュニケーションがもっと図れれば、保護者は子供から学校での取組を聞くことができ、肯定的割合も上がると思われる。
- ・ 地域、企業等との連携など、学校を取り巻く地域環境を生かした取組の成果が表れていると感じる。積極的に地域とかかわりを持とうとする姿勢がうかがえ、実践していることが評価につながっていると思う。
- ・ 各種行事が行われていることや校内だけではなく地域とのコミュニケーションが図られていることが素晴らしく、子供たちの思い出に残る活動をこれからも継続されることを期待する。
- ・ あいさつ、言葉遣いについて、さらに気を付けていくとよいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた評価や意見を受け、これまでの取組の成果を生かして更なる効果をあげていくとともに、次年度の方策について検討し、組織としてより団結していきたい。
- ・ 家庭・地域・企業等の地域の人材や資源を基に今まで培ってきた協働活動を継続し、平石地区や宇都宮市、栃木県への愛着を育む教育活動の充実を図る。これらの活動については、学校だよりや学年だより、ホームページを活用し、広く情報を発信していく。
 - ・ 小規模校の強みを生かして児童一人一人の実態を的確に捉え、きめ細かく指導や支援ができるよう、学校経営方針に沿って組織的・計画的に対応していく。
 - ・ 食育の取組(家庭科や学級活動の授業、栄養士・給食委員会からのメニューや調理法の説明、食事マナー、地産地消等)を食育だよりや献立表を通して発信し、家庭との連携を強化していく。
- 鬼怒地域学校園の重点目標の「あいさつ」の取組の推進を図る。人権を尊重する手立ての一つとして、地域や保護者からも認められる「時と場に応じたあいさつ」を児童が身に付けられるよう、日常生活や授業の中で考えさせるとともに、教職員が率先して実践していく。